

東京江戸散歩 その七 上野 ③

写真・文 七海邦夫



右上：精養軒 右下：桃林堂 左上：亀屋一睡亭 左下：伊豆栄

毒舌・独言

我が「葬」の定年は七五才と決めた。日本男子の平均寿命が七六才だからほぼ一生働くことになる。冗談でしょ？という顔を思い浮かべながら、私は真剣に賃金体系などの詳細検討を進めている。そもそも「定年」という制度は、一九世紀のド

言問い通りを渡ると左手に八万四千体の石地藏を祭る浄名院がある。此方は咳や喘息を治すへちま供養が旧暦八月十五日に行われる。

上野桜木2丁目の信号から桜並木に入ると谷中霊園、寛永寺墓地の飛地になっている。十五台將軍慶喜の墓をはじめ、作家では上田敏、佐々木信綱、広津和郎、獅子文六、円地文子、色川武夫。思想家、マスコミ関係では馬場辰猪、中村正道、田口邦夫、福地桜痴。音楽界では宮城道雄、本居長世。美術界では横山大観、朝倉文夫。演劇、映画界では澤田正二郎、天津乙女、長谷川一夫、稲垣浩、実業界では洪沢栄一。他に植物学者牧野富太郎。他に変わったところでは明治

初期にたぐいまれな悪女といわれた高橋おでんの墓がある。幸田露伴の名作「五重塔」は谷中天王寺町に二年間住んで書いたと言われるが、その五重塔は霊園内の交番近くに礎石を残すのみ。寛政四年(1792)再建以来、安政地震にも上野戦争にも関東大震災にも負けずに残ったが、昭和三十二年放火心中事件の巻き添えで惜しくも焼け落ちてしまった。

最後にグルメスポットを揚げれば、上野精養軒(明治五年に創業した西洋料理店、人気はデミグラスソースを十日間ほどじっくり煮込んで仕上げたハヤシライス)、新鷲亭(動物園正面の左脇に風情有る佇まいを見せる甘

かない程度。そんな時代に定年が六〇才だったというところは、「死ぬまで働ける」ことを保障する制度だったと理解できる。(ピスマルクは八三才の長寿だった事もあり、政敵を流放するために定年を設けたらしいとの説もある)

翻って、現代日本の状況はと見れば少子高齢社会は既に到来し、喫緊の課題百出！である。医療制度・年金制度の崩壊と共に、労働人口の減少は看過できない。移民の受け入れすら検討されているが、私はそれも変だと思

先ずは、足元の見直しだ。だからこそ「定年七五」であると言いたい。沖繩長寿村の秘訣にある通り、人間生きていくには、意志さえあれば、そして可能な範囲であれば働き続けるのが良いのではなからうか？

当然従来の日本型年功序列賃金体系は機能せず、全くの新システムが必要となる。今私はそれを模索している。ところで皆さんは今でも働いていますか？ハタラクとは、人が動き、ハタ(他)をしてラク(楽)しめることです。(朱夏)

味処。創業は大正四年、名物は創業当時から続く鶯団子、桃林堂(和菓子、喫茶、名物は五智果、小鯛焼き)、山を降りると伊豆栄(鰻割烹)、亀屋一睡亭(鰻、旬菜料理)、ことう更科、天寿々、大昌園(焼肉)、黒船亭(洋食)、双葉(とんかつ)、蓮玉庵(そば)等々寄りたれはきりが無い。次回回は深川です。

世評・時評

年も変わり二〇〇九年は米国ではオバマ新大統領が就任し、新しい政策にチャレンジされる事が期待される。一方日本では麻生政権が支持率が十二%まで下が

これからの日本は国際的に世界の場に出て広く発言し主導権を持たなければ日本の存在価値はないと思います。日本はあの敗戦と云う屈辱を受けたにも係わらず、世界的経済大国になったわけですから、国を愛するならば日本文化と云うよい国民性を生かして平和な住みよい国にすべきではないでしょうか。(かくれみの)

誰が救う事が出来るのか、日本にも若い優れた人材が現われない限り、時代も二十一世紀になり総べての生活環境も習慣も変わりつつあるこの過渡期に何か新しい発想を持って考える以外ないと思います。今のような派

味処。創業は大正四年、名物は創業当時から続く鶯団子、桃林堂(和菓子、喫茶、名物は五智果、小鯛焼き)、山を降りると伊豆栄(鰻割烹)、亀屋一睡亭(鰻、旬菜料理)、ことう更科、天寿々、大昌園(焼肉)、黒船亭(洋食)、双葉(とんかつ)、蓮玉庵(そば)等々寄りたれはきりが無い。次回回は深川です。

俳壇「あおい」

尺八に
令わせて謡う
初稽古
相田 美代子
蠅梅や
香り高うして
本橋 富子
花祭り
まだ啼かぬ
鶯とび来る
春隣り
山村 匡子

編集委員会より

「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しております。担当飯島 迄お申し出下さい。

利用者さんの紹介コーナー

早野 浩

葵にお世話になり、もうすぐ一年になります。早く葵を卒業すべく努力していますが、もう少しはらく皆さんと一緒にさせて下さい。



宮坂 京子

葵に通所して八カ月楽しい時間を過ごしています。これからもよろしくお願ひします。



室田 貞子

「奥の細道」を楽しく、そして懐かしく拝聴しております。学生時代、その折の教師の面影、お声など思い出しながら次回を楽しみに。



加藤 勇

病院では誕生会も個人情報でなかった。退院後老人施設に入る人はこっ

そり退院した。葵で誕生会がありホッとした。



菊池 初江

葵に通うようになって早九ヶ月になります。職員の皆様はじめ、お友達とお話できて楽しいです。これからもよろしく。



高田 寛

葵に通所して七カ月。週三回リハビリをがんばっています。皆様と楽しく過ごしながら、言葉がもう少しスムーズにできるようになりたいと思っています。



上原 ヒサ子

通所させていただいてから足のつれる痛い事がなくなりとても楽しくなりました。体操をがんばりたいと思います。よろしくお願ひ致します。



随筆 「失語症」
澤 道雄

脳の働きは、二十代を過ぎると低下していくといわれています。体力や筋力は、デイサービス葵でトレーニングをしますが、脳の機能は出来ません。私は脳梗塞の後遺症で失語症になりました。言語聴覚士(S.T.)による専門のリハビリを受けていますが、この機会葵通信に体験したことを書きます。

随想 バリ島② 懐かしの麻雀
平江 輝男

バリ島の遠くに海が見え最高に美しい場所に別荘があり、妻を亡くし子供もいない日本人が、現地の恋人と可愛い二匹のトイプードルと一緒に住んでいた。一年も経つとトイレの水が出なくなり、出てもチョロチョロだけという別荘で、毎週土曜日朝から夕方までよく麻雀をやったものだ。昼はそこでご馳走になり、夜は勝った者が中華の夕食を奢ることになっていた。

そんなある日、いつもの様に麻雀をやった。友人が親で大四喜をあがった。私が西・北を打ち込

失語症は、言葉を正しく理解する、話す、書く、ことが出来なくなる症状があり、右半身の麻痺を伴う事が多いのが特徴です。家庭での過ごし方と簡単なリハビリです。
①今日は「有難う」など挨拶する。
②家族の住所や氏名を一緒に言ったり、書いてみる。
③仲間や知人の名前を声に出して言う。
④日記をつける。天気や出掛けた場所を一行だけでもよい。

み、その日一番負けていた別荘の主が六筒で振りこみ。親であり四万八千点の打ち込みで半荘だけで五万四千字の負け。トータルで三万五千七百点の負けである。レートは一点が一萬ルピ(日本円百五十円、約五万七千円の負けである。いつもは最終的な負けは六千円位になる。この位の金額ではないように思われるが、ビールは百五十円、あとサテチャンブル・ミーゴレン・ガドガド・ソトアヤム・チャップチャイ・えび入りピーナツクランチなど四人のお腹がいっぱいになる。その日は遅くまで飲んでしたが結局一万四千円しか使わなかった。その後、別荘の主は衝撃が大きかったのか二度と麻雀

をしよとは言わなくなり、我々の前から一切顔を見せなくなった。日本に帰って、その後私は五十六歳で入院。それから五十八才になって久しぶりにやって見たものの点数がどうしてもわからない場合が多い。脳卒中のせいなのだ。点数計算を何度もやっていくうちに何とか分かってきたようだ。一年間、随分無駄をしたものだ。今は昔のバリでの麻雀を懐かしく思い起こす日々である。

⑤囲碁、将棋など言葉を使わないなど趣味があれば積極的に。
⑥短く、簡単な言葉でゆつくり話す。俳句を作る、読むことは効果があがる。
⑦できるだけ具体的に話す。例えば「のどがかわきましたか」よりも「お茶を飲みますか」



山本敏子さん バンコクによる作品

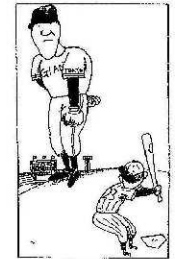
⑧一度で分らない時は、繰り返したり、言い換えたりする
⑨言葉先廻りして言ったり、間違った言葉を一つ一つ訂正しない。
⑩喜怒哀楽は病気の前と同じ。子ども扱いせず、感情を共通する。これ以外に、もっとあると思います。

フ口野球意外史
なんでも三傑

横山 稔

「飲んべえ」の部
酒仙投手の元祖は戦前の名投手・西村幸生(阪神)、戦後は秋田の酒屋の息子・石田四六(国鉄)が受け継いだ。投手兼外野手で売り出した永淵洋三(近鉄)も毎晩ボトル一本を空けたが首位打者を獲ったので有名。

「甘党」の部
ご飯に砂糖をかけて食べた異色の左腕投手・権藤正利(大洋)、あの顔で一滴も飲めなかった藤村富美夫(阪神)、それにシュークリームとメロンと菓子パンに目のない長嶋茂雄(巨人)



「珍名」の部
最高傑作は一言多十(ひとことたじゅう)、熊耳武彦(くまみみたけひこ)、べらぼうに長い赤根谷飛雄太郎(あかねやひゆうたろう)、この三人は同一チームの東急で同時に活躍しました。

葵友の会 広報コーナー

【歩こう会】一月二六日快晴のもと野川公園を歩き深大寺にてそばを食す。

【麻雀大会】二月二八日雀荘「現代」にて二名参加により開催、優勝は横川喜入子さん。
【カラオケ会】二月二〇日スナック「愛海」にて参加一〇名。今後「愛海」にて継続。(毎月三金)

